

佐々木 由恵

日本社会事業大学社会福祉学部援助学科 教授

介護領域における危険予知トレーニング（KYT）テキストの開発研究

様々な産業界、とりわけ医療の分野では医療過誤や医療事故防止のために教育訓練や、ヒヤリハット・事故報告書等から緻密な分析を行い、安全性の高い医療サービスの提供に全力を挙げている。近年の人口構造の著しい高齢化そして医療改革の進行は、医療ニーズを増大させ、介護の現場でも、「社会福祉士・介護福祉士法」の一部が改正され、平成24年4月より、介護職が研修等の一定の条件下で、喀痰吸引と経管栄養の医療行為が業務としてできることとなった。

このような背景を基に、今後益々、医療介護連携が必要とされていくが、一方で、介護職と看護職のコミュニケーションギャップも問題視されている。本研究ではコミュニケーションギャップの原因の一つとして「認知的スキームの差」を仮定した。本研究では、8つのテーマから成るKYTの動画シーンを制作し、その動画を使用し、「自分であればどのように行動をするか」を、「エビデンス（根拠となる事実）」「リーズン（その理由）」「アクション（行動）」の3要素で捉える「認知スキーム用紙」を用いて、介護職と看護職の認知スキームに差異があるか否か、差異があれば何が要因となっているのかを検証し、データを分析・蓄積していくことで介護職及び介護職と専門職間の連携における危険予知ガイドラインの策定およびテキスト開発を目指したものである。